

D を平方数でない自然数とする。 $x^2 - Dy^2 = 1 \cdots \textcircled{1}$ を満たす自然数解 (x, y) について考える。

(1) $(x, y) = (a, b)$ とすると、自然数 n に対して、 $(a + b\sqrt{D})^n = a_n + b_n\sqrt{D}$ で求まる (a_n, b_n) は、 $\textcircled{1}$ の解であることを示せ。

(2) $\textcircled{1}$ を満たす自然数解のうちの2組を $(x, y) = (a, b), (c, d)$ とすると、 $\frac{c + d\sqrt{D}}{a + b\sqrt{D}} = A + B\sqrt{D}$ を満たす (A, B) は、 $\textcircled{1}$ の解であることを示せ。

(3) $\textcircled{1}$ を満たす自然数解のうち、 $x + y\sqrt{D}$ の値を最小にするものを $(x, y) = (p, q)$ とすると、

$(p + q\sqrt{D})^n = p_n + q_n\sqrt{D}$ を満たす (p_n, q_n) は、 $\textcircled{1}$ の解の全てであることを示せ。

(解答)

(1) 題意を数学的帰納法で示す。

(I) $n = 1$ のとき

$$(a + b\sqrt{D})^1 = a + b\sqrt{D} = 1 \text{より明らかに成り立つ。}$$

(II) $n = k$ のとき

「 $(a + b\sqrt{D})^k = a_k + b_k\sqrt{D}$ で求まる (a_k, b_k) が $\textcircled{1}$ の解であれば、

$(a + b\sqrt{D})^{k+1} = a_{k+1} + b_{k+1}\sqrt{D}$ で求まる (a_{k+1}, b_{k+1}) が $\textcircled{1}$ の解である」 $\cdots (*)$

$(*)$ を示す。

$$\begin{aligned} (a + b\sqrt{D})^{k+1} &= (a_k + b_k\sqrt{D})(a + b\sqrt{D}) \\ &= a_k a + b_k b D + (a_k b + b_k a)\sqrt{D} \\ (a_k a + b_k b D)^2 - (a_k b + b_k a)^2 &= a^2(a_k^2 - D b_k^2) - D b^2(a_k^2 - D b_k^2) \\ &= a^2 - D b^2 \\ &= 1 \end{aligned}$$

よって、 $(*)$ が示された。

以上、(I) (II) より、題意は示された。

$$(2) \frac{c + d\sqrt{D}}{a + b\sqrt{D}} = \frac{(c + d\sqrt{D})(a - b\sqrt{D})}{(a + b\sqrt{D})(a - b\sqrt{D})} = \frac{(c + d\sqrt{D})(a - b\sqrt{D})}{a^2 - b^2 D} = (ac - bdD) + (ad - bc)\sqrt{D}$$

$$A^2 - B^2 = (ac - bdD)^2 - (ad - bc)^2 D$$

$$= a^2(c^2 - d^2D) - b^2(c^2 - d^2D)D$$

$$= a^2 - b^2D$$

$$= 1$$

よって題意は示された。

(3) (1) より、 (p_n, q_n) は、①の解であることは明らかである。

①を満たす任意の解を $(x, y) = (s, t)$ とすると、ある自然数 n について、

$$(p + q\sqrt{D})^n \leq s + t\sqrt{D} \leq (p + q\sqrt{D})^{n+1}$$

が成り立つ。全辺を $(p + q\sqrt{D})^n$ で割ると

$$1 \leq \frac{s + t\sqrt{D}}{(p + q\sqrt{D})^n} \leq p + q\sqrt{D}$$

$p + q\sqrt{D}$ は最小であるので、(2) より、 $p + q\sqrt{D} = 1$

よって、 $\frac{s + t\sqrt{D}}{(p + q\sqrt{D})^n} = 1 \Leftrightarrow s + t\sqrt{D} = (p + q\sqrt{D})^n$

よって、題意は示された。